

(1)事業の概要等

事業番号	B1302-3
実施計画事業	
実施計画事業以外の事業	○

令和5年度 事務事業評価シート

事業の概要	事務事業名	児童生徒特別支援事業					担当部	教育委員会事務局				
	事業期間	昭和63年度以前	～	令和7年度以降		担当課	学校教育課					
	小牧市まちづくり推進計画(R1年～R4年)	分野別計画編	基本施策	13	展開方向	2	担当係	学校教育係				
	予算区分	一般会計	款	10	項	1	目	3	大	4	中	4
	根拠法令・個別計画	教育基本法 小牧市教育大綱 小牧市教育振興基本計画					事業種別	一般事業				
	目的・成果 (何のために、どのような成果を期待するか)	<p>学校・学級不適應を起こしている児童生徒に適切な支援・指導を行う。 心を支える環境の整備を行うことにより、問題行動の予防を目指した関係機関との連携や問題を抱える子どもへの対応の充実を図る。</p> <p>平成30年度から学校生活サポーターを配置して、特別支援学級において、個別の支援が必要な事案に対する支援を行う。特別支援学級では、肢体不自由、病弱・身体虚弱など、児童生徒の実情に応じて、指導内容や指導方法を工夫しているが、個別の支援が必要なケースや在籍児童生徒数が多いなど特に運営支援を必要とする場合がある。</p>										
	対象 (何・誰を対象に)	学校・学級不適應を起こしている児童生徒とその保護者、関係する教職員 個別の支援を必要としている児童生徒										
	内容・手段 (目的達成のためにどのような事業を実施したか)	<p>○学校生活サポーター 特別支援学級において、特に支援が必要な学級や児童生徒に対して、「学校生活サポーター」を配置した。(16名)</p> <p>○スクールサポーター 小中学校に「スクールサポーター」を配置し、主としてクラスに入って児童生徒の指導で担任を補助する業務及び児童生徒の不登校の対応など、個々に対しきめ細やかな対応を行った。(小学校16名、中学校10名を配置)</p> <p>○特別支援教育相談員 学校心理士の資格を有する「特別支援教育相談員」が各校を巡回し、面談や発達検査・ケース検討を行い、より適切な対応を模索し、児童生徒・保護者・教員に対して指導と支援を行った。(相談員1名)</p> <p>○こどもこころの相談室相談員 学識経験者や医師が「こどもこころの相談室相談員」として、小中学校を巡回し、学校の援助チームとともに専門的な見地から支援を行った。(有識者1名、医師2名)</p> <p>○学習チューター 大学生を「学習チューター」として募集し、小中学校および公立幼稚園へ派遣し、授業や学校生活等の支援を行った。(48名)</p> <p>●直接経費(令和4年度) 賃金 103,444千円 報償費 2,735千円 旅費 8千円 備品購入費 160千円</p> <p>●直接経費(令和5年度) 賃金 127,247千円 報償費 3,007千円 旅費 44千円 備品購入費 0千円</p>										
受益者負担	無											

(2)事業費

		項目	単位等	R1	R2	R3	R4	R5
直接経費	決算額	財源	一般財源	千円	78,398	87,283	101,319	106,347
		国・県支出金	千円					
		その他	千円					
		計(A)	千円	78,398	87,283	101,319	106,347	
	対前年比	%	—	111.3%	116.0%	104.9%		
	予算額	千円	84,633	100,172	112,688	115,751	130,298	
人件費	正規職員	人	0.80	0.80	0.80	0.80		
	正規職員(平均賃金)	千円	5,989	5,989	5,989	5,989		
	その他職員	人	36.00	39.00	42.00	43.00		
	その他職員(時給×時間)	千円	64,258	84,898	98,612	103,444		
	計(B)	千円	70,247	90,887	104,601	109,433		
事業費合計(C=A+B)		千円	148,645	178,170	205,920	215,780		

(3)業績

展開方向における指標の推移		基本施策		13		展開方向		2	
指標名		単位	方向性	基準値	R2	R3	R4	R5	
1									
2									
3									

指標	指標ほか		単位		R1	R2	R3	R4	R5
	成果指標	学習チューター活動回数	回	目標	—	—	—	—	—
				実績	683	754	534	721	
	こどもこころの相談室相談員相談回数	回	目標	—	—	—	—	—	
			実績	208	161	215	191		
	活動指標	学習チューター人数	人	目標	—	—	—	—	—
				実績	38	54	43	48	
	こどもこころの相談室相談員数	人	目標	—	—	—	—	—	
			実績	3	3	3	3		
	単事業あたり	受益者数(a)		人	12,731	12,640	12,569	12,189	
受益者あたり事業費(=C/a)		円	11,675	14,095	16,383	17,702			

(4)事業の評価

事業の評価	事業の方向性	拡大	対象の拡大や手段の充実等により、事業のボリュームを拡大すべきもの						
	事業の達成状況と課題	<p>○学校生活サポーター H30年度から、特別支援学級の児童生徒で特に個別の支援が必要なケースや特別支援学級の在籍児童生徒が多いなど運営支援を必要とする学校に対して、学校生活サポーター(16名)を配置し、よりきめ細やかな対応を実施することができるようになった。</p> <p>○スクールサポーター ○特別支援教育相談員 相談員1名が市内25校を巡回し、発達検査や保護者面談、ケース会議への参加や教員への支援を行っている。長期にわたり児童生徒、保護者と関わるため、進路選択の場面でも適切な助言を行っている。しかし、年々、発達検査や相談の希望数が増えていることから、今後は保護者や学校、児童生徒の要望に充分には応じられないことが危惧される。</p> <p>○こどもこころの相談室相談員 平成31年度から医師2名による訪問となる。医師2名による訪問は学期に6回、年間で18回。その他は有識者1名による訪問であり、令和4年度の場合は173回。医師による「こどもこころの相談室」を希望する学校は令和5年度1学期の場合、19校にのぼり、希望しても巡回してもらえない学校が多い。</p> <p>支援を必要とする児童生徒の増加に加え、個々がもつ障がいや課題、困り感は一人一人ちがう。児童生徒に適切な支援と指導を行うために、専門的な見地からの指導助言を求めるケースが今後も増えていくことが予想される。</p> <p>○学習チューター 活動回数が減少傾向にあるが、その理由としては、近年、大学が授業の一環として、学生を学校に派遣する活動しており、学生が個人で登録する学習チューター数が減少していることによると考えられる。</p> <p>特別支援相談員による巡回相談や、スクールサポーターを配置し、学校・学級不適応を起こしている児童生徒に適切な指導、支援を行った。</p> <p>通常学級にも支援が必要な児童生徒がいるため、そういった点を踏まえて今後も、きめ細やかな支援を行っていくための体制を整えていく必要がある。</p>							
	今後の実施内容	<p>○学校生活サポーター ○スクールサポーター ○特別支援教育相談員 ○こどもこころの相談室相談員 ○学習チューター 支援が必要となる原因は多種多様であるため、今後もきめ細やかな支援体制を検討していく必要がある。</p> <p>特別に支援が必要な児童生徒数については、増加傾向にある。また、インクルーシブ教育の進展に伴い、障害のある児童生徒が、特別支援学校ではなく、地域の市立学校へ就学希望するケースが多くなってきているが、当面は現体制での指導を継続していくことから、事業全体のボリュームとして「拡大」とした。</p>							
事務事業評価による額	千円		節	細節		細々節			